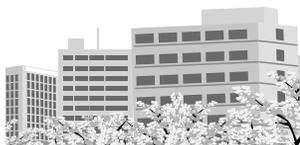


会員の広場



2025年(令和7年)巳年(うづいて)!!

田川 修司 (東京)

縄文時代の遺跡からは、祭祀用と思われる土器の縁から鎌首をもたげるかのような蛇や、蛇頭を上に乗せた巫女型の土偶などの土器が多く出土されています。農耕による食料生産が始まると穀物を害する鼠を食している蛇は「豊穰神・天候神」でした。手足のない蛇の独特な姿は不気味さを感じさせ、毒のあるものは脅威でもありました。しかし、太古の昔より蛇は生命力

が強く、神秘的な生き物として畏怖されてきました。脱皮を繰り返して成長していく蛇は、古くから「生命」「再生」「始まり」の象徴として不老不死や子孫繁栄、豊穰などに繋がる縁起の良い生き物とされてきました。実に神秘的な生き物として捉えられています。2025年の干支は「乙巳(きのとみ)」です。「乙(きのと)」は「草木が成長し始めて曲がりながらも伸びてゆく」「巳(み)」は蛇が脱皮を繰り返すことから「再生と変化」を意味します。巳の月は旧暦4月(概ね新暦5月)、巳の刻は午前10時を中心の約2時間(午前9時～11時頃)、巳の方は南南東よりやや北寄りの方角、五行は火気。なお「蛇」「蛇の皮」「蛇の殻」「蛇衣(きぬ)」を脱ぐ」は俳句で夏の季語です。蛇は昔から謎めいていて数々の神話に登場します。中国では天地創造の神は人面蛇身です。

日本にはヤマタノオロチという有名な一つの体に八つの頭と八つの尾をもった蛇の化身がいます。旧約聖書のエデンの園の話にはアダムとイブに禁断のリンゴを与えた蛇の話が出てきますし、ギリシア神話に登場する女性の怪物メデューサは髪の毛の一本一本が蛇です。そして、私たちの周りには蛇に関連した諺や教訓や鋭い風刺などを内容とする言葉が沢山ありました。それらをいろいろとまとめる事を行ってみました。

「長蛇」「蛇神」「蛇の目」「蛇の口」「蛇足」「大蛇」「蛇腹」「蜿蜒長蛇」「蛇根性」「蛇の執念」「蛇の気迫」「蛇稽古」「蛇が蛙を呑んだよう」「蛇に睨まれた蛙」「蛇の道は蛇」「蛇の生殺し」等々。相場格言「辰巳天井」と、巳年の相場は俗に上昇相場といわれます。諺には、鋭い風刺や教訓・知識などが沢山含んでいて不思議に人を引き付ける力があります。

世界中の人々が愛する永遠のベストセラー「星の子さま」(サン・テグジュペリ著)にも蛇が登場しています。最初に大蛇ボア(ウワバミ)の絵の話が、そして王子さまが自分の星から旅にでて、訪れた星は7つ。地球以外の6つの星は、大人が陥りやすい問題点を表しています。最後の星地球の砂漠に降り立った王子は、まず最初にヘビに出会います。ヘビは、王子さまの精神的な成長を促し、内面問題を解放させる役割

を担っていると考えられます。ヘビは王子さまの子供としての死を迎えることで、王子さまを大人へと成長させ、抱えている問題を内面から解放しようと解釈できます。ヘビのセリフは「謎は全部おれが解く」と読んだ方がよりしっくりきますね。

「かんじんなことは目に見えない」と、それは物語全体を通じて繰り返されるテーマです。目に見えるものだけで判断するのではなく、心で感じることの重要性を伝えてくれています。王子の星と彼の花、そしてキツネとの友情のエピソードが、このメッセージを象徴しています。星の王子様が教えてくれる哲学をいろいろと掘り下げてみる事も興味深いです。

最近では、ロシアのウクライナ侵攻などが世界中を大きく変えています。そしてそれらの背景が人々の価値観など大いに変えています。先の見通しのつきにくい世界が不安定な情勢の今、ヘビのように脱皮して良い方向へと生まれ変わることを願いたいですね。(巳の諺に興味のある方は事務局に連絡をいただけると資料を提供します。)